

各種調査研究、政策の提言、行政への提言・各種申し入れ、広報活動及び講演会の実施、共通する価値観との醸成・連携——を事業とし、環境との共生を考え、活動しているボランティア団体です。



環境と共生

第9号

平成15年1月15日発行 発行：環境21世紀の会 編集：総務会 有付親雄
住所 〒277-0042 柏市逆井4-9-5 TEL04-7174-2185 FAX04-7169-4016

ひばくする環境問題、生活者の側からどう捉え、どう考え、どう実行に移すかが問われています。会員を募集しています。問い合わせ、申し込みは左記総務会まで。



経済の中で生かされ 環境変化とどう共生

環境21世紀の会会長 三上隆司

日本経済を覆う不況の大波は、新しい年に入っても静まる兆候は見えません。新経済政策の中で不良債権処理が加速されますと、40万人とも60万人ともいわれる失業者が出ると予測されています。

こうした厳しい状況下で、国と地方を合わせて700兆円を超える借金にあえぐ。しかし、わが国は世界最大の債権国で外貨準備高も世界最高水準と聞きます。

その一方で国民の総金融資産は1400兆円にも達しています。国が借金し、国際的には金を貸し与え、国民はセッセとお金を貯める、このちぐはぐな構図はどう見てもおかしいと思うのですが…。

私見ですが、それは先行き不安だからお金を使わない、お金を使わないからデフレとなり、ものが売れない、売れないから企業が倒産、失業者が増える、そしてデフレスパイラルに落ち込む、その先を考えるだけでもゾッとします。

国は調整インフレだのインフレターゲットだのと模索し、考え方によってはインフレを起こして借金

を目減りさせ、あわせて経済を活性化させ、景気をよくしようということのようです。

経済は拡大し、豊かさを追求し続けた結果、バブルが弾け、長期不況が続き、GDP世界第2位の“名誉”は色褪せ、温暖化など地球そのものにも大変な重荷を背負うはめになってしまいました。

私たちは、こうした今まで追及し続けて来たものは何であったのか、今こそ考え直すチャンスではないかと思えます。

環境21世紀の会は、経済の動きとともに、その中で私たちが生かされているというグローバルな視点に立って、地球規模で環境が破壊されている現状を身近な問題として捉え、変わらざるを得ない環境と、どう共生していけるか。

この手づくりの小さな新聞の題字がもつ意味を、改めて噛みしめ、確認する次第です。

会を支える強力なプレーンと多数のボランティアの方々へ感謝し、共に今年も身近なところから環境問題に取り組んで参りたいと思えます。

＝バザーにご協力
ありがとうございました＝



会場風景の一部

今年で3回目を迎えたバザーも多くの方々のご好意、ご協力により無事終了することが出来ました事を心より感謝いたしております。

今後も色々な活動を企画、実行していきたいと考えておりますので、皆様の変わりぬ暖かいご支援よろしくお願いたします。

<バザー担当 工藤幸子>

前回の記事取りのお詫び

第8号で平成14年度ダイオキシン類の調査結果を「環境総合研究所調べ」としたのは誤りでした。14年度分は、柏市が別の民間機関で調査したものでした。記事の誤りをお詫びすると共に、今後誤りの無いよう細心の注意をさせていただきます。

昨年12月の新基準を守れたか

＝国で2割弱が未達成＝

千葉県の新報告率36%、基準オーバーの可能性

廃棄物焼却炉（処理能力50kg/時以上）の既設施設基準では、80ng-TEQ/m³となっており、平成14年12月以降、施設規模の大きさ、4t/時以上、2t/時以上～4t/時未満、2t/時未満では、それぞれ1、5、10ng-TEQ/m³以下と厳しくなった。

環境省の平成13年12月までの調査では、産業廃棄物では、2,930炉中に455炉が基準を満たさないものがあつた。千葉県の平成13年度のダイオキシン濃度の発表によると、基準を超える施設は714施設中、11施設で概ね良好のようだが、県への報告率が全体で64%であり、多分、未報告の36%の施設は基準を超えている可能性がある。埼玉県でも基準に達しないものが約3割あるようだ。柏市南逆井の「三高工業」の焼却施設は基準を4倍超えており、停止した。

柏市では、平成14年4月からダイオキシン類発生条例が施行された。能力の小さいごみ焼却炉や簡易焼却炉では届出の義務があるが、まだ未届出のものもあるようだ。又、条例では野焼きも禁止されている。

産業廃棄物の炉について、柏市は県の問題として腰が引けているが、柏市に存在している産業廃棄物の施設については、住民の健康を守るために千葉県に意見具申するなどの積極的な態度が望まれる。

ご案内

「生ごみリサイクル」シンポジウムの開催

資源循環型社会の構築とごみ減量化は、市民と行政の共通課題です。それぞれの役割、問題点を考えるため、多数の方の参加をお待ちしています。生ごみリサイクルシンポジウムの開催は下記の通りです。

記

- 日時：平成15年2月23日(日)14:00～16:00 (受付13:30)
- 場所：増尾台 防災会館（柏市増尾台4丁目）
- 内容

- (1) 基調講演：(株)ニッチ 代表取締役 組田幸彦
「好気性菌による生ごみ堆肥化BOX(DH-5)」
- (2) パネル討論
 - ・柏楽園町会（今城久光町会長）「戸建住宅での生ごみの処理」
 - ・NPO 柏・ニワトリの会（宮田清子代表）
「エコ農場のとりにくみ」
 - ・NPO 緑の会（恒川敏江代表）「取手市の生ごみ
堆肥化モデル事業」
 - ・(株)ニッチ（代表取締役 組田幸彦）

主催：環境21世紀の会

（駐車場がありませんので、ご了承下さい。）

わたしの つぶやき

東京の千代田区では、10月から歩きタバコに対する禁止条例を施行したそうです。ポイ捨て禁止で、違反行為に対しては罰金徴収のこと。私自身は喫煙をしないため、この条例に対して何ら影響を受けませんし、どちらかという結構なことと受け止めています。喫煙者にとっては大変なようです。事実、テレビのニュースの中でポイ捨てをして罰金を徴収された若い女性は、ものすごい剣幕で係員に食って掛かってい

ました。このような過剰まではやり過ぎとの声もあるようですが、千代田区長によると、もはや個人のマナーやモラルに期待することは無理とのこと。日常を見回して見ると、確かに区長の言うとおりにかもしません。やれ不況だ、株価低迷だ、北朝鮮の拉致だ、何だかんだと騒いでいる間に、何かもつと本能的なものが静かに崩れているのではと感じる年の初めです。（逆井H.Y）

平成13年度事業系生ごみの排出状況

—柏市公設市場の生ごみなど—

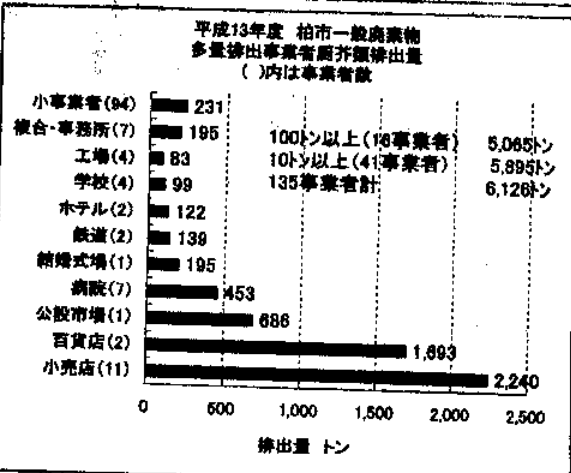
平成13年4月から食品リサイクル法が施行されました。食品の製造、流通、販売、外食などの食品関連事業者で、年間100トン以上の排出事業者は、平成17年度までに年間排出量の20%を削減しなければなりません。

食品廃棄物の発生状況は、1996年のデータによりますと、食品製造業から生じる産業系の食品廃棄物は、約340万トン、食品流通業、外食産業などから生じる一般廃棄物が約600万トン、この他に一般家庭から生じる一般廃棄物が1,000万トンと併せて2,000万トン程度が発生しています。

柏市の家庭系の生ごみのリサイクルと事業系の食品廃棄物について現状を紹介いたします。柏市民は、コンポスト容器、EM菌を利用した処理容器、機械式処理機など(平成2年から13年度まで9,753世帯)を利用して、生ごみを処理してきました。

1世帯の生ごみ量を350グラムとして、約8割の家庭で利用されたと仮定すると、1日当たり2.7トンと試算されます。1年では、約1,000トン弱になります。

柏市一般廃棄物多量排出事業者の135事業所の合計で1年で6,126トン、食品リサイクル法の適用を受ける100トン以上が16事業者で、5,065トンで約83%を占めています。その中でも、11の小売店(スーパー)で2,240トン、2つの百貨店で1,693トン、柏市の公設市場は1カ所でなんと686トンの生ごみが排出されています。柏市公設市場は、昨年夏に井戸水から大腸菌が検出されて問題になったところです。食品リサイクル法は一昨年施行されました。柏市は、まず「腕より始めよ」という事で、自治体が先んじて食品廃棄物のリサイクルを行い、民間の多量排出事業者を指導していくべきだと思います。



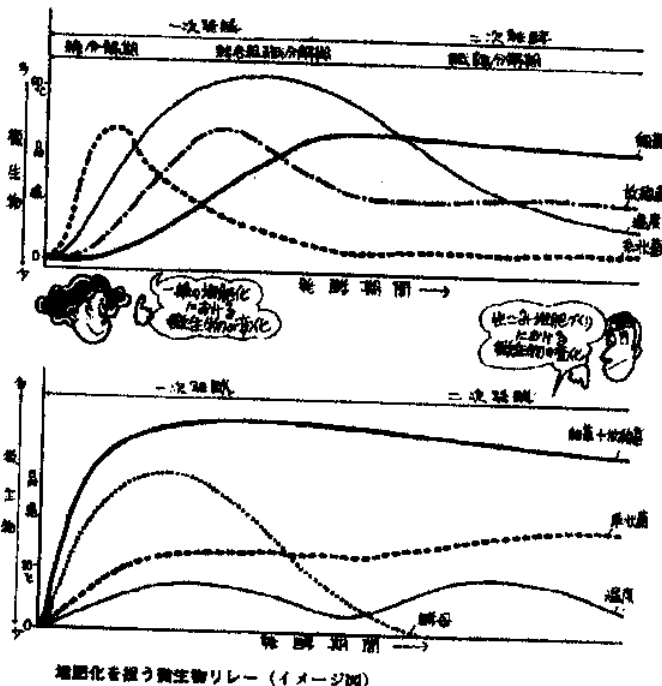
生ごみ堆肥化で失敗をせぬコツ

生ごみを堆肥化して、嫌な臭いがついた、虫が湧いて失敗したとして止めてしまうことがあります。生ごみの堆肥化の過程で種々な微生物が働いています。失敗を防ぐには、この微生物の種類と役割を知ることがポイントです。

- ①微生物には空気を好む菌(好気性菌)と空気を好まない菌(嫌気性菌)とその中間的な菌(通性嫌気性菌)があります。嫌気性菌は、卵が腐ったような硫化水素、アンモニア、メルカプタン、アミン等の悪臭を発生します。
- ②堆肥を上手に作るには、有効な微生物が空気に触れて高い温度で発酵させることが必要です。空気に触れさせるために、生ごみの水切りです。生ごみは90%以上の水分があります。水分が多いと、嫌気状態になり嫌気性菌が働きます。
- ③堆肥化には水分含量は約60%が適しています。

材料を手に握りしめたとき手に水気を感じる程度です。バケツであれば下に溜まった水を抜きます。

- ④生ごみを日に干して乾燥させるか、乾燥した土や堆肥を混ぜるなどします。新鮮な生ゴミを使用して、腐敗したものは使用しない。
- ⑤生ゴミを細かく刻むと乾燥も速く、空気に触れて分解が速くなります。
- ⑥水分調節のために乳酸菌を多く含む米糠を混ぜると、乳酸菌により乳酸を生成し、pHが下がり、嫌気性菌抑制に効果的です。乳酸菌を利用した食品として、漬物、ヨーグルト、味噌等があります。
- ⑦蓋付きのプラスチック容器で堆肥化すると、蒸散した水が容器の壁に結露して水分過剰になり易いので注意が必要です。好気発酵では、微生物が増殖し活発に活動すると、微生物の呼吸により部分的に酸素が不足し、嫌気状態になることがあります。



名古屋市の生ごみ資源化モデル事業 (市民とNPOと自治体の協力の成果)

名古屋市の人口は平成14年10月で218万人です。名古屋市では、平成10年に藤前干潟の環境を守るため埋立て処分ができなくなり、ごみ減量の非常事態宣言を行い、ごみの減量化を行ってまいりました。ごみの処分に窮した名古屋市は、徹底的なごみの分別収集、減量に取り組んでまいりました。

平成10年度のピーク時に102万トンのごみ量であったが、平成13年度は76万トンになり、3年間に25%減量し、市民の環境意識も高まった。ごみ量の減少に伴い、生ごみが可燃ごみの5割近くを占めるようになった。平成13年度生ごみ資源化モデル事業として、市内2地区をモデル地区として各家庭の生ごみの再資源化を行った。

生ごみを市で配布した生分解性の袋(20L入り)に入れて、可燃ごみ収集と同じ日に出してもらい、市の収集車が回収し、清掃工場に隣接した堆肥化施設に運び込む。床材としてチップを入れ3-4ヶ月間で熟成させる。13年度に資源化された生ごみは34トン強であった。1世帯あたり1年間に180kgの生ごみで190世帯が参加した。

一方、藤前干潟は、水鳥の生育知池の保全を目的とするラムサール条約に昨年11月に登録された。

このため、一般の堆肥化では「切返し」といって攪拌を行い内部まで空気を入れてやる必要があります。

- ⑧悪臭の発生の元になる魚などは使用しない。
- ⑨温かい環境にすることです。一般的には、高温(40~60℃)で微生物が元気になり、分解速度が猛烈に速くなります。
- ⑩一般の堆肥化と生ごみ堆肥づくりにおける微生物の変化について

図に示します。一般の堆肥化の場合、最初に活躍するのが、糸状菌(カビ)です。糸状菌は糖類やアミノ酸を食べ、急激に増殖すると呼吸熱を出し、40℃を越すと死滅します。次に温度に強い放線菌などが増殖し、セルロースなどの繊維質を食べ分解します。この時期は、条件が良ければ60℃以上の温度になります。放線菌には抗生物質を生産するものが多く有害な微生物を抑制します。次に、温度が下がってきて放線菌によって分解された繊維組織を食べるいろいろな細菌(バクテリア)が増えてきます。いよいよアンカーの登場です。生ごみ堆肥化づくりの場合は、前者と挙動が違つて酵母も働きます。

なお、本文を纏めるに当たり、藤原俊六郎監修「家庭でつくる生ゴミ堆肥」を参考資料としました。

編集後記

・平成11年にダイオキシン類対策特別措置法が制定され、平成14年12月までに廃棄物焼却炉の既設施設の排出ガス規制基準が強化された。しかし、基準に達しないものが20-30%あるようだ。
・柏市事業系一般廃棄物の多量排出事業者の業種と生ごみ発生量について現状をまとめてみました。平成13年4月に食品リサイクル法が施行された年度の排出実績でもあり、今後の成行きを注目していきたい。(T.K)